

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K11600

研究課題名(和文)地域のアクティブ・エイジングを促進する運動・スポーツの人材育成とモデル構築

研究課題名(英文) The development of human resources for exercise and sports that promote active aging in the local community and building models

研究代表者

常行 泰子 (Tsuneyuki, Yasuko)

高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・准教授

研究者番号：90632589

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、運動・スポーツ指導の質に関する要因を分析・検証し、地域のアクティブ・エイジングを促進するための人材育成モデルを構築することを目的とした。インタビューと質問紙による調査と地域におけるアクティブ・エイジング事業を行い、運動・スポーツをささえる人材を育成してモデルを構築、成果発表を行った。COVID-19感染拡大による事業の影響を受けたものの、学校やメディアを含めた学外との連携により地域への波及効果が高い研究成果を挙げる事ができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域住民や自治体、特別支援学校等と密接に連携してアクティブ・エイジングを促進する運動・スポーツの人材育成を行ったことで、学内外の連携協働体制を構築する意義が示唆された。メディアを含めて波及効果の高い事業も進めることができ、社会実装を射程に入れ、極めて高い研究成果が示されたと考えられる。今後は、共生社会実現に向けて、地域の健常者だけでなく、障害児者や高齢者、在日外国人を包含する地域・国際社会に向けた研究の発展が期待される。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to analyze factors related to the quality of exercise and sports instruction, and to build a human resources development model to promote active aging. We conducted interviews, questionnaire surveys, and active aging projects in the local community to develop human resources who can support exercise and sports. Although affected by the project due to the spread of COVID-19 infection, we were able to produce research results with a high ripple effect on the local community through collaboration with schools and the medias.

研究分野：スポーツ社会学、身体教育学

キーワード：地域スポーツ アクティブ・エイジング 人材育成 指導者 フィットネス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

少子高齢化と人口減少が進むわが国において、地方を中心とする運動・スポーツ環境は極めて厳しい状況にある。地域社会を「ささえる」運動指導者やボランティアスタッフは高齢化が進み、若年の運動・スポーツ人材が不在の中山間地域も四国には多数存在する。本申請者の研究室では、地域住民のプログラムニーズに基づくアクションリサーチを行い、国内外の大学における運動・スポーツ事業の知見を活用して、フィットネス理論と実践に基づく地域連携事業を実施してきた。一連の実証的研究から、今後は、質の高い運動・スポーツ指導者の育成と共に、行政や各関連機関と連携協働して、地域へプログラムを戦略的に推進する人材育成が期待される。

2. 研究の目的

研究では、運動・スポーツ指導の質に関する要因を分析・検証し、地域のアクティブ・エイジングを促進するための人材育成モデルを構築することを目的とした。

3. 研究の方法

・第1段階【2019年度】インタビュー調査・質問紙作成

1)行政担当者とスポーツ団体・指導者(コーディネーターやボランティアスタッフ含む)を対象としたインタビュー調査を実施した。地域特性や住民への健康サービス、ニーズ等を収集・分析し、施策への反映方法や内容、方向性等のチャンネルについて検討した。

2)地域に居住する運動実施者・初心者の中高齢者(40 - 70 歳代)を対象としたインタビュー調査を実施した。本調査結果を踏まえ、先行研究(Mayers et al, 2006; 内閣府, 2013; 公益財団法人日本体育協会, 2016)を基に調査項目を構成した。パイロット調査を踏まえて質問紙を作成した。

・第2段階【2020年度】質問紙調査・分析

1)地域に居住する運動実施者・初心者の中高齢者(40 - 70 歳代)を対象に、自己記入式の質問紙調査を実施する予定であったが、COVID-19 感染拡大による影響で次年度へ延期となった。調査項目は、コンピテンシー(Mayers et al., 2006)、体力・スポーツに関する世論調査(内閣府, 2013)、コーチ育成に関する知識と技能(公益財団法人日本体育協会, 2016)を基に、「コミュニケーション」「ホスピタリティ」「動機づけ」「知識スキル」「技能スキル」から構成した。

2)質問紙とインタビューによる量的・質的検証を行うミックス法(Creswel, 2003)を用いて指導の質を明らかにした上で仮説モデルを構築する予定であったが、COVID-19 感染拡大による影響により次年度へ延期となった。

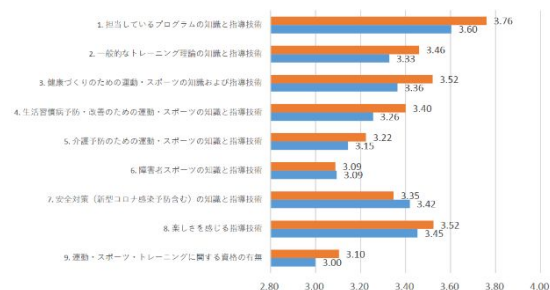
・第3段階【2021年度】モデル検証・修正モデル構築 (2021年度)

1)地域のアクティブ・エイジング事業を大学・行政・運動・スポーツ指導者(団体)が連携して実施した。関係者間でトライアングレーション(Denzin, 1989)を行い、仮説モデルを質的に検証して修正モデルを明らかにした。

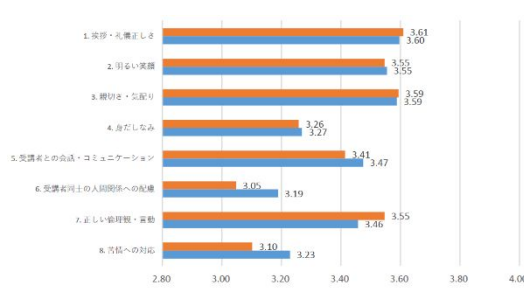
2)一連の成果を発表し、研究論文を執筆した。国内外の情報も踏まえながらアクティブ・エイジングや地域のスポーツ振興に係る普及活動を実施、学生の教育研究に反映した。

4. 研究成果

地域のスポーツ施設2カ所の利用者を対象とした質問紙調査を行った結果、運動・スポーツ指導における質は、指導者の知識・技術面以外にも人間性に対する期待が大きく、「健康づくり」や「楽しみ」、「他者との交流」といった先行研究で示唆されている変数の影響が強くみられた。重要度・満足度共に高い値が示され、指導者に対する期待の高さが示唆されており、「運動・スポーツ指導の質に関する調査研究」として報告書を作成した。



運動・スポーツ指導者の知識・指導技術



運動・スポーツ指導者の接客・人間性

また、特別支援学校や小学校と連携し、学校教員と社会体育指導者によるトライアングレーションを実施した。教育委員会及びメディア等学外の組織団体と連携したプログラム展開も行うなど、地域社会への波及効果が高い研究成果を挙げることができた。



特別支援学校と大学の連携によるトレーニング指導



住民と学生による地域への運動プロモーション（メディア出演）

地域におけるスポーツイベントの調査やフィールドワークを整理・分析し、研究論文として発表するなど学術的貢献にも尽力した。また、大学学部生がオンラインによるフィットネスプログラムを作成・指導するなど社会実装を射程に入れた人材育成を行う等、ICTを利用した人材育成のための実践的なモデルを構築することができた。一連の事業は、学会発表や研究論文、著書、メディア出演等を通じて地域社会に公開し、実践的なスポーツ指導に関する人材育成を進めることができたと考えられる。今後は、障害児者や高齢者、在日外国人を包含する、共生社会の実現に向けたモデル構築の応用可能性が期待される。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

常行泰子(2019) 地方における公立大学の地域貢献事業に関するケーススタディ：日本とオランダの比較検討．身体運動文化論攷 (18) 47-59．

常行泰子・野中陽一朗・村田トオル(2019) アクティブシティ実現に向けた運動・スポーツの人材育成に関する質的研究．高知大学学術研究報告(68) 125-134．

常行泰子・柴英里・松田弥花・長谷川雅世・柴田雄介(2020) 地域教育と学校教育における国際化を目指したヘルシーエイジングの授業実践．日本教育大学協会研究年報 38 153-162．

常行泰子・村田トオル・野中陽一朗(2020) 地域の運動・スポーツ人材における指導スキルの探索的検討．高知大学教育学部研究報告(80)293-299．

常行泰子・坂井香代・野中陽一朗(2021) 特別支援学校の知的障害生徒を対象とした個別トレーニングによる保健体育の授業実践．高知大学学校教育研究(3) 173-179．

〔著書〕(計1件)

常行泰子・柴英里編著、野中陽一朗・吉岡一洋・野角孝一・森田佐知子著(2021) 教育とヘルシーエイジングー持続可能な社会の実現を目指してー．株式会社晃洋書房．

## 6. 研究組織

(1)研究代表者氏名：常行 泰子(TSUNEYUKI YASUKO)

所属研究機関名：神戸市外国語大学

部局名：外国語学部

職名：准教授

研究者番号：90632589

(2)研究分担者

研究分担者氏名：野中 陽一朗(NONAKA Yoichiro)

所属研究機関名：高知大学

部局名：教育学部

職名：准教授

研究者番号：30735270

研究分担者氏名：村田 トオル(Murata, Toru)

所属研究機関名：大阪青山大学

部局名：健康科学部

職名：准教授

研究者番号：30635991

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 常行泰子, 坂井香代, 野中陽一朗	4. 巻 3
2. 論文標題 特別支援学校の知的障害生徒を対象とした 個別トレーニングによる保健体育の授業実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高知大学学校教育研究	6. 最初と最後の頁 173-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 常行泰子, 野中陽一朗, 村田トオル	4. 巻 68
2. 論文標題 アクティブシティ実現に向けた運動・スポーツの人材育成に関する質的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高知大学学術研究報告	6. 最初と最後の頁 125-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 常行泰子, 柴英里, 松田弥花, 長谷川雅世, 柴田雄介	4. 巻 38
2. 論文標題 地域教育と学校教育における国際化を目指したヘルシーエイジングの授業実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育大学協会研究年報	6. 最初と最後の頁 153-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 常行泰子, 村田トオル, 野中陽一朗	4. 巻 80
2. 論文標題 地域の運動・スポーツ人材における指導スキルの探索的検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知大学教育学部研究報告	6. 最初と最後の頁 293-299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常行泰子	4. 巻 1
2. 論文標題 地方創生とアクティブ・エイジングを目指す運動・スポーツの指導者像	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本体育学会第70回大会体育社会学専門領域発表抄録集	6. 最初と最後の頁 135-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Yasuko TSUNEYUKI, Toru MURATA, Megumi TANI, Shintaro INABA, Hitoshi SAKIMORI
2. 発表標題 A longitudinal study on the needs for exercise and sports among the potentiality group in Japanese elderl
3. 学会等名 The 2020 Yokohama Sports Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 常行泰子
2. 発表標題 地方創生とアクティブ・エイジングを目指す運動・スポーツの指導者像
3. 学会等名 日本体育学会第70回大会体育社会学専門領域
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 常行泰子、村田トオル、野中陽一郎
2. 発表標題 地域の運動・スポーツ人材における指導の質 - 量的アプローチによる検証 -
3. 学会等名 日本スポーツ産業学会第28回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 編著者：常行泰子、柴英里、著者：吉岡一洋、野角孝一、野中陽一郎、森田佐知子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 株式会社晃洋書房	5. 総ページ数 135
3. 書名 教育とヘルシーエイジングー持続可能な社会の実現を目指してー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野中 陽一郎  (Nonaka Yoichiro)  (30735270)	高知大学・教育研究部人文社会科学系教育学部門・准教授   (16401)	
研究分担者	村田 トオル  (Murata Toru)  (30635991)	大阪青山大学・健康科学部・教授(移行)   (34443)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------